

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされており、保護者様・来訪者様等の閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

平成28年度 東京都福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

2017年3月7日

社会福祉法人稲城青葉会
城山保育園上石原 御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号 機構 03 - 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 清水 康之



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	②	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	③	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	④		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑤		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑥		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	城山保育園上石原			
事業所連絡先	〒	182-0035		
	所在地	東京都調布市上石原3丁目8番10		
	TEL	042-490-2031		
事業所代表者氏名	城所 理恵			
契約日	2016年 10月 1日			
利用者調査票配布日(実施日)	2016年 10月 24日			
利用者調査結果報告日	2016年 12月 2日			
自己評価の調査票配布日	2016年 10月 19日			
自己評価結果報告日	2016年 12月 2日			
訪問調査日	2016年 12月 8日			
評価合議日	2016年 12月 8日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査実施にあたっては、開始時に調査の趣旨などを記した依頼状の配付やポスター掲示などで理解促進を図るとともに、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付するほか、必要に応じ提出期限を延長するなどして回収率向上に努めた。 事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。			

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p>
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人を大切に、生きる力を培う保育への実践 ・安心できる子育て支援環境を充実させる ・マニュアルの見直しと人材育成による保育の質の向上 ・定期的なアンケート・調査による利用者のニーズを知り、満足度を高める ・子ども・保護者・職員・地域で協力し合って子どもの未来を支えていく「共育」を目指す
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p>
	<p>(1) 職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の専門的知識を高めることはもとより、個々の人間性を高め、保護者から信頼されるような職員
	<p>(2) 職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育のプロとして専門的な知識を高め、自信をもって仕事に取り組んでほしい。また、一人一人責任感をもち、自分で考え判断できるようになることにより、仕事に対するやりがいをもってほしい。

調査対象

調査開始時点での本園の利用世帯109(在籍児童数125)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は事業所と協議のうえ郵送または郵送と事業所内での回収との併用にて行い、結果は選択式・自由記述とも園に報告した。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数	109
共通評価項目による調査対象者数	109
共通評価項目による調査の有効回答者数	63
利用者総数に対する回答者割合(%)	57.8

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」58.7%・「満足」38.1%の計96.8%と高い値を得ており、設問別でも「食事」「整理整頓・清潔」「職員の対応・身だしなみ」「ケガ・体調変化への対応」など全16問中11問で80～90%台の高い支持を得ている。自由意見では「園児一人ひとりをよく見てくれ、挨拶がきちんとされていて保護者への気遣いがあり、担任だけでなく遅番の先生も笑顔で接してくれるなど、人間味があって信頼できる」「職員の連携が取れ、保育内容がしっかりしていて子どもの目線にも親の目線にも立ってくれ、相談もしやすく、登降園システムや毎日の保育を携帯などから見られる点、読みやすい園便りや園庭の芝生などもよい」「体育や造形指導・クッキングなど普段の保育以外にも活動があり、七夕や夏祭り・ハロウィンなど季節に合わせたイベント活動もよい」「園内がいつも清潔でとても気持ちがよく、子育て講座の企画やその他イベントを通じて地域貢献を積極的に行っている点も素晴らしい」などの声が寄せられている。さらなる向上を望む意見としては設備面や安全・保健面、行事や保育、職員の保護者への接遇、保護者の負担や就労等への配慮に関することなどが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	55	7	0	1
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が88.7%、「どちらともいえない」が11.3%となっている。自由意見は10件で、「食べきれる量で提供され、毎日完食・おかわりしており、世界のごはん等、イベントメニューもとてもおいしそうだ」「世界のごはんの提供時にはその国のことも知ることができるように資料も作ってくれ、よいと思う」「毎食食物を出してくれて助かり、うれしい」などのほか、食事・おやつに関するさらなる検討を望む声が見られた。				
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	53	9	1	0
「はい」が84.1%、「どちらともいえない」が14.3%、「いいえ」が1.6%となっている。自由意見は9件で、「お散歩によく行ってくれている」「いろいろなところにお散歩に行ってくれている」「毎日いろいろな公園に出かけたり、夏は水遊び、季節によってさまざまな遊びをしていてよいと思う」などのほか、戸外活動のさらなる充実を望む声なども寄せられている。				
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	50	9	0	4
「はい」が84.7%、「どちらともいえない」が15.3%となっている。自由意見は、「連絡を入れれば対応してくれ、受け入れもよいと思う」「連絡が延長保育開始間際になってしまっても、補食に対応してもらえるので助かる」の2件があった。				

4. 安全対策が十分取られていると思うか	45	13	4	1
「はい」が72.6%、「どちらともいえない」が21.0%、「いいえ」が6.5%となっている。 自由意見は10件で、「危険なところも指摘があればすぐに対応してくれる」「子どもがケガをしたら、次に同じことが起こらないよう対策を取っていた」のほか、外部侵入対策や設備面、保育中の安全管理について、気になる点が挙げられている。				
5. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	55	8	0	0
「はい」が87.3%、「どちらともいえない」が12.7%となっている。 自由意見は5件で、「年度初めに日程を知らせてもらえるので予定が組みやすい」「小学校・中学校のイベントと重ならないようにしてくれてありがたい」「運動会は近くの小学校を借りて、雨天時でも体育館で行えるので、雨天時は別の日とならずに助かる」のほか、懇談会の開催曜日に関する要望が見られた。				
6. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	53	10	0	0
「はい」が84.1%、「どちらともいえない」が15.9%となっている。 自由意見は8件で、「お便り帳を丁寧に書いてくれ、子どもの様子がよくわかる」「何かあれば話をしてくれ、直接話す必要があればお迎え時間までいてくれる」「担任以外にも主任や看護師の先生方も話しかけやすく、先生方からも話しかけてくれる」「私達の気持ちに寄り添い、よく話を聞いてくれる」などのほか、「先生による」との声も見られた。				
7. 職員は保護者の考えを聞く姿勢があるか	54	8	1	0
「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が12.7%、「いいえ」が1.6%となっている。 自由意見は、「とても親切に聞いてくれる先生がいる」の1件があった。				
8. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	58	5	0	0
「はい」が92.1%、「どちらともいえない」が7.9%となっている。 自由意見は6件で、「いつもきれいに掃除してくれている」「掃除もできており、季節ごとの飾りつけも工夫されていて楽しい気分になる」などのほか、各室内の清掃や衛生管理などについて、さらなる配慮を望む声も見られる。				
9. 職員の接遇・態度は適切か	56	5	2	0
「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が7.9%、「いいえ」が3.2%となっており、昨年度（「はい」65.1%）に比べて著しい改善が見られる。 自由意見は4件で、「挨拶がよくできているので気持ちがいい」のほか、職員の言葉遣いや身だしなみについて、さらなる配慮を望む声寄せられている。				
10. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	56	5	2	0
「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が7.9%、「いいえ」が3.2%となっている。 自由意見は7件で、「看護師がとても丁寧に話しかけてくれてよい」「発熱した際も少し様子を見てくれ、仕事にも気を遣いつつ電話してくれる」「細かく状況を教えてくれたり、仕事を理解し、熱の子どもの対応をしてくれて感謝している」などのほか、ケガの把握・対応や保護者への連絡について、さらなる配慮を望む声も寄せられている。				

11. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	38	12	0	13
「はい」が76.0%、「どちらともいえない」が24.0%となっている。 自由意見は6件で、「まだ上手にやり取りできる年齢ではないので、先生が代弁して子どもの気持ちも汲んで対応してくれている」「危険が伴う時はきちんと叱ってくれてよいと思う」「いさかいがあっても、さよならするまでには気持ちがすっきりしているようだ」などのほか、子ども間のいさかい等の際の保護者への情報提供、子ども一人ひとりへの配慮や目配りなどについて、さらなる配慮を望む内容も見られる。				
12. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	51	11	0	1
「はい」が82.3%、「どちらともいえない」が17.7%となっている。 自由意見は5件で、「子どもの気持ちが不安定な時も見守りながら対応してくれ、ありがたい」「きちんと聞いてくれている」のほか、子どもの気持ちを大切にされた対応について、さらなる配慮を望む声も寄せられている。				
13. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	52	5	1	5
「はい」が87.1%、「どちらともいえない」が12.9%となっている。 自由意見は4件で、「毎日の保育内容はホームページで確認できて便利だ」のほか、子どもの様子や保育内容等に関する保護者への報告・伝達などについて、さらなる向上を望む声も見られる。				
14. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	54	8	0	1
「はい」が87.1%、「どちらともいえない」が12.9%となっている。 自由意見は4件で、「毎日の保育内容はホームページで確認できて便利だ」のほか、子どもの様子や保育内容等に関する保護者への報告・伝達などについて、さらなる向上を望む声も見られる。				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	46	12	1	4
「はい」が78.0%、「どちらともいえない」が20.3%、「いいえ」が1.7%となっている。 自由意見は不満・要望等への傾聴姿勢や対応などについて、さらなる配慮を望む声が1件寄せられている。				
16. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	29	11	2	21
「はい」が69.0%、「どちらともいえない」が26.2%、「いいえ」が4.8%となっている。 自由意見には記入がなかった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 9/9
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	目指す保育のあり方や法人としての使命を、さまざまな取組で職員や保護者に伝えている 法人共通の使命とする「一人一人を大切に、生きる力を培う保育」と保護者・地域にとっての「安心できる子育て支援環境」の提供などをミッションステートメントとして文章化し、これに連なる保育の基本方針や職員の行動指針などとともに、ホームページを通じて地域や社会に表明している。保護者にはこれらを入園時の説明や年度当初の懇談会などを通じ、それぞれ資料を交えて伝え、職員に対しては採用後の新人向け研修のほか、園内全職員に配付する「職員のしおり」への掲載と説明などによって周知と各職員の実務における実践につなげている。 保護者の多様な価値観への対応と園の目指す保育の実現を両立させることに努めている 「職員のしおり」や法人共通の「職務基準書」に経営層をはじめとする各職位・職種の業務内容が定められている。経営層は「誰もが笑顔でいられる保育園」を目指し、その重要な成立要件である職員が楽しくやりがいを持って働ける組織作りを引き続き注力している。また保護者の働き方や子育て観が多様化する中で、保護者のさまざまな意向・要望への対応を保育所の責務として大切にするとともに、それに偏りすぎない、園本来の目指す保育や子どもの育ちの実現を基本とした運営の実現を目指し、保護者満足の向上との両立に向けた試行錯誤を続けている。 内容や緊急性に応じて重要案件を検討し、組織内での周知と保護者への伝達を行っている 毎月2回の職員会議を中心に、内容や緊急性により朝礼・昼礼やリーダー会議なども機会として園内の重要案件を検討し、欠席者や短時間職員などには直後の前述の各会議等及びその記録の確認、短時間職員向けの「朝夕会議」、事務室の掲示板や園内グループウェアなどを通じて行っている。今年度はクラス単位で常勤の担任と補助の短時間職員が話し合う時間を定例化し、情報共有や課題検討が深まるようにしている。保護者には書面の配付・掲示や玄関のモニタ、必要に応じた緊急連絡用のメッセージボード設置や懇談会などを通じて重要な決定等を伝えている。	

カテゴリ-2		
2	経営における社会的責任	
サブカテゴリ-1(2-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	評点(〇〇)	
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	評点(〇〇)	
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○非該当
評価項目2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当
評価項目3 地域との関係機関との連携を図っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域との関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>職員の倫理観向上と、さまざまな情報発信による地域への透明性確保に取り組んでいる</p> <p>人権の尊重や説明責任・守秘義務など法人の職員に求める自覚と社会的責任が「職員のしおり」に記され、年度開始時に同しおりを全職員に配付のうえ、確認を行っている。また子どもの尊厳・人権への配慮や保護者への接し方等に関する具体的な禁止用語・対応を示した「保育者の対応基準チェックシート」の読み合わせを年度当初と9月の年2回実施している。地域向け広報紙「らすく」の近隣の児童館での配布、ホームページと調布市の市報や保育所利用希望者向け各種媒体を通じた園の各種情報の提供・地域子育て支援の広報など、透明性確保にも努めている。</p> <p>地域の子育てを支援するために、園の専門資源を積極的に提供している</p> <p>産休明け保育・一時預かりのほか、園庭開放を土日祝を除く毎日、地域の子どもたちが在園児と園庭の大型遊具で遊んだり、紙芝居やお遊戯をして過ごす時間を提供する「お外で遊ぼう会」を毎週開催している。さらに有償の給食体験「キッズランチ」、地域の保護者が子どもを園に預けたうえで育児相談や他の保護者との交流を行い、子育ての喜びの共有と悩み・不安の解消につなげる「すくすく広場」など、さまざまな取組によって地域の子育て世帯に園の専門資源を提供しており、今年度は都の事業を活用した外部講師による子育て講座も2回開催している。</p> <p>ボランティア等の受け入れや市内の各機関との連携協力にも積極的に取り組んでいる</p> <p>市内3中学校からの職業体験生のほか、市内在住の高校生・大学生の保育体験ボランティアが来園しており、いずれも法人共通の関係規程に基づいて受け入れ、機密保持等に関する誓約書を取得している。また市内の民間及び公私立合同の保育所園長会で行政施策及び各園の情報の共有、研修会の企画開催などに加わるほか、園長が地域の児童館の運営委員会や地元の小学校区内の地区防災対策委員会、園長と年長児担任が幼稚園・小学校との連携懇談会に参加し、今年度は地域のまちづくり協議会にも参画するなど、地域の各機関との連携にも積極的に取り組んでいる。</p>		

3 カテゴリー3		
利用者意向や地域・事業環境の把握と活用		
サブカテゴリー1(3-1)		
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 8/8
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー3の講評		
<p>保護者の個別の要望・苦情などを受けとめる仕組みや機会を整え、対応に努めている</p> <p>苦情解決制度及び第三者委員について、玄関に面した事務室のカウンターに案内を常置するとともに、入園時に説明資料「園のしおり」をもとに保護者に説明している。玄関には意見箱や意見申し出用紙も設置しており、ホームページにも制度の概要や意見申し出様式を掲載している。これらによらない日常レベルの個別意見は毎日の保護者との会話や連絡帳への記入・保育参観後に行う個別の面談などから把握し、案件に応じて経営層または組織内で共有のうえ、改善への反映や園の方針等に関する当該保護者との共通理解形成などに取り組んでいる。</p> <p>アンケートの手法による保護者全体の意向の把握を積極的に行い、改善の参考としている</p> <p>保護者参加の各種行事では終了後に書面で感想を収集し、集計のうえ概要を園便り「しぜんとなかよし」で保護者に報告するとともに、抽出した課題を次年度の計画に引き継いでいる。また開園以来毎年実施する第三者機関による利用者調査でも、主な意見の抜粋に園の回答を添えて園便りでフィードバックを行っている。さらに職員参画の「子ども」チームが今年度展開している「世界のご飯」の活動では、毎年行う「早寝・早起き・朝ご飯」の啓発とともに、その効果などについてアンケート調査を実施し、企画の参考とするなど、さまざまな取組を行っている。</p> <p>地域の子育て家庭の声や行政・制度の動向などを把握し、活動や運営に反映させている</p> <p>地域向けの給食体験「キッズランチ」では参加者から感想や要望などを書面で収集し、企画検討や今年度のレシピ配付などの改善に反映させており、今年度行ったしつけ講座でも内容や時間、今後期待するテーマ等をアンケートで収集している。また市内の園長会をはじめとする地域の諸機関とのさまざまな交流機会、自治体からの通信物や法人内の園長会などを通じて、地域の状況や国・自治体の保育政策などを把握している。各種情報は今般の社会福祉法人制度改革など、法人・園の運営への反映に努めるほか、会議等を通じて職員にも伝えられている。</p>		

カテゴリ-4		
4 計画の策定と着実な実行		
サブカテゴリ-1(4-1)		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 11/11
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	○非該当
評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなど の取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

サブカテゴリ-2(4-2)		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる			
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている		○非該当
●あり ○なし	4. 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる		○非該当
カテゴリ-4の講評			
<p>課題解決や質の向上に向けた3か年計画と年度の事業計画を策定・実行している</p> <p>法人共通の仕組みである職員参画の各プロジェクトチームの活動を軸に、さまざまな課題解決や質の向上に向けた今年度までの3か年計画を策定しており、保育や保護者・地域への支援など各チームの活動の進捗は、職員会議で適宜なされることとなっている。「子ども」「地域」など5チームの各活動は、チームごとに活発度が異なることなどを課題としつつも、食事・食育の充実につなげる「世界のご飯」の取組、保護者の意向への対応や前述の各種地域子育て支援、実務的な観点からの安全向上の取組など、園の保育の質を高める活動が進められている。</p> <p>各分野での活動単位の計画作成・実行や、さまざまな外部の事例の参照がなされている</p> <p>上記のほか、年単位の計画として保育・食育や保健・各種訓練など分野別の計画が策定され、それぞれの活動の指針とされている。また月・週の保育や毎月の避難訓練・毎回の行事など活動単位でも担当者が計画を作成し、これに基づいた準備・実行とともに、終了後の反省や行事での保護者の感想募集などから課題抽出を行っている。法人内の研修では系列各園の事例発表が行われるほか、園長会での市内他園との交流や外部の各研修での学び、保育関連の専門誌や報道される業界内の事例・事故など、外部の情報も参考とされている。</p> <p>各種リスクに関する啓発や保育中の安全確保に向けたさまざまな取組を行っている</p> <p>安全向上に資する毎月話題や取組テーマを定めた「リスクマネジメント年間計画」を策定し、職員会議での系列他園のヒヤリハット事例等の報告のほか、個人情報保護・虐待防止・SIDS予防など各種リスクマネジメントについて、経営層や看護師などから啓発がなされている。保育中のケガ等は今年度改定された報告書様式への記録と朝礼・昼礼や会議及び園内グループウェアを通じた共有によって再発防止を促し、その他防災・防犯訓練の実施や東京消防庁の優良証交付を受けた職員の救急救命講習受講など、さまざまな取組による安全の向上に努めている。</p>			

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1 (5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 8/8
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(5-2)	
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる <input type="radio"/>非該当
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる <input type="radio"/>非該当
カテゴリ-5の講評	
<p>人材の獲得から育成・評価及び処遇に関する総合的な人事制度が整備されている</p> <p>職員の募集・採用は法人が包括的に行うほか、園単位でも短時間職員の確保など状況に応じた対応を行っており、園内での配置は各クラスの状況や各人の意向や経験・適性などを考慮して経営層が決定している。また「自己申告書」によって個別の目標設定と園長との面談を通じた達成評価・意向把握を行うとともに、法人が「職務基準書」に定めた職位・職種や経験に応じて求める能力・資質に基づいて人事考課を実施し、業績評価と一部処遇への反映を行うことで、各職員の貢献や成長を意欲の向上にもつなげる人材マネジメントの仕組みとしている。</p> <p>各職員の状況に応じた研修派遣など、組織としての資質の向上に取り組んでいる</p> <p>上記の等級別に必要な研修と該当者を「研修計画」に一覧化し、各職員の研修派遣と年度末の実績報告を行う仕組みを設けるほか、「育成計画」には毎年度の各人の成長課題と研修実績・評価反省を記録している。法人において、上記の各仕組みとともに、これら育成・評価等に係る諸制度の目的や用途の検証、整理や統合など、さらなる機能発揮や運用負担の軽減を図る工夫にも取り組んでいる。各種団体・自治体が開催する保育・安全衛生・行政施策などの研修に職員が参加した際には、報告書・資料の供覧や会議での報告などによって成果の共有を図っている。</p> <p>組織力の向上と発揮に向け、現場の課題検討や職場環境の整備に取り組んでいる</p> <p>各クラスでの「新人OJTチェックリスト」による新人教育のほか、会議での現場の課題検討や行事の企画・反省、昨年度末の全職員からの課題認識の収集など、職員の気づきや知見の集約と活用に努めている。職員の意向は上記の園長との面談等で把握し、必要な対応につなげるほか、賃金改善や勤務形態の拡充、メンタルヘルスケアや各種施設・店舗等の優待利用など福利厚生制度の整備もなされている。職員自己評価で見られた労働環境面等の意見についても、引き続き業務の整理や効率化を検討し、経営層と「職員チーム」を中心に解決に取り組む意向である。</p>	

7 カテゴリー7		
情報の保護・共有		
サブカテゴリー1(7-1)		
情報の保護・共有に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	7/7
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー7の講評		
<p>ITを活用した情報の活用と書類・データの管理の徹底のための仕組みを整備している</p> <p>各種書類・電子データとも、保管は事務室内の施錠可能な書庫で行うとともに、事務室入口には電子式のセキュリティ錠を設置し、関係者以外の入室を制限している。職員が必要な時に利用できる台数のPCを確保するとともに、園内グループウェアを整備し、会議等の記録や各種事務連絡など保育・事務両面での効率的な情報共有に活用している。各PCには使用者や管理する情報に応じパスワードを設定し、ネットワーク内でも職位等に応じたデータ階層やパスワードの設定を行うなど、ITを活用した情報の快適な利用と保護・管理の徹底に努めている。</p> <p>子どもの肖像の利用等について、入園時に保護者への説明を行っている</p> <p>保護者には入園時に「園のしおり」に基づいて、プライバシー保護に向けた園の方針とともに、子どもの肖像の利用に関することなどを説明し、保護者の行事等での私的撮影物等についても同しおりの中で配慮を求めている。またホームページに掲載のプライバシーポリシーには、個人情報の利用目的として子どもへの保育・教育及び園児管理、必要時の保護者への連絡などを挙げるとともに、開示請求への対応についても記載している。29年度の入園対応からしおり・ポリシーの記載内容の整合を図り、より確実な説明と同意確認につなげる予定としている。</p> <p>職員・ボランティア等に個人情報保護の徹底を促すための啓発機会を設けている</p> <p>職員への個人情報保護等に関する啓発として、新人には入職時の法人の研修と「OJTチェックリスト」による初期教育、その他を含む全職員にも年度当初の「職員のしおり」の確認により、守秘義務の遵守や個人情報保護の徹底を促しており、入職時の誓約書取得も短時間を含む全職員から行っている。SNS上での機密漏洩の禁止についてもこれらの機会に指導がなされている。ボランティア等には受け入れ時の説明と誓約書提出によって守秘義務の徹底を促している。</p>		

カテゴリー8	
8 カテゴリー1～7に関する活動成果	
サブカテゴリー1(8-1)	
前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
園・法人の各単位で、組織としての認識や情報の共有などに向けた取組がなされている 年度前半の懇談会で、ミッションステートメントや園の保育理念・方針を含め、園長が園としての考え方や取組を説明する時間を設け、保護者との共通理解が深まるようにしている。組織内においても、常勤の担任と補助の短時間職員とで情報共有や課題検討を行う時間を定例として設け、要配慮児への支援などについて認識や対応の標準化を図るとともに、話し合いを通じた理念等の共有を深めることも目的としている。 また安全面で、職員参画の「危機管理」チームが中心となり、BCP(災害発生時等の事業継続計画)の見直しや各種防災備蓄品の整備・更新、設備環境面の安全確認などの取組がなされている。 法人関連では、園長・主任会議に加え、各園主任の要望を踏まえて主任のみが参集する系列園会議を設け、より現場の実状に即した情報共有や課題検討を行えるようにするほか、就業規則を改定して個人情報・特定個人情報に関する項目を追加、「服務規律」を「禁止事項」としてより具体的に定めるなど、倫理・規範面の記載を改定し、法人全体の研修で通達している。	
サブカテゴリー2(8-2)	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
組織的な資質向上に向けたさまざまな取組や、法人による職員処遇の改善がなされている 入職3年目までの職員には、配属クラスの各リーダーを指導役として「新人OJTチェックリスト」による初期教育を行い、身だしなみや勤怠・整理整頓・個人情報保護から日常の現場での各定型業務まで、社会人・保育所職員としての基本心得・行動などの定着を図っている。また各種団体・自治体による各分野の専門研修に職員を派遣するほか、保育者としてのカウンセリングマインドの啓発のための研修の受講を常勤全職員に推進するなど、各職員の研鑽を通じた保育や保護者・地域の子育て支援の充実を目指している。さらに昨年度末には利用者調査で寄せられた意見を踏まえ、全職員から保育実践上の気づきを募り、子どもへの言動などを中心に課題検討や職員への個別指導を行うなど、組織的な資質向上に努めている。 また上記の法人による就業規則改定に関連し、勤務時間帯が日々変わることなく固定的なシフトで働ける「シフト限定正職員」、育児・健康上の理由等に応じて勤務時間を短縮する「短時間正職員」の各制度を新設し、より働きやすく長く勤められるようにするほか、国・自治体の制度も活用した住宅借り上げ制度の導入や賃金面における一時金支給・ベースアップも実施している。	
サブカテゴリー3(8-3)	
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
情報管理と保育のそれぞれにおいて、改善や充実に取り組み、成果につなげている 情報管理面では、年度開始時など必要なタイミングで随時行う書類の整理及び移動・廃棄により、書類の検索と閲覧をスムーズに行える状態の維持向上につなげている。 保育面では、「子ども」チームの取組として、身近な環境・社会と食をつなげ、子どもの食べる意欲と世界からつながる興味・関心をさらに広げる工夫がなされている。5歳児は老人ホームの訪問を行う機会を設け、歌を披露したり、昔遊びを教えてもらうほか、4・5歳の部屋で落ち着けるスペースを設け、個別の配慮や情緒の安定にもつながっている。 また散歩先で帰園できないことを想定して公衆電話の位置を追加、「公園お散歩MAP」の更新を行っている。また子どもの食事のマナーについて園として一貫したルールで伝えることとするなど、より保護者に子どもの様子や園での保育などへの理解が深まるような工夫をしている。	

サブカテゴリー4(8-4)

事業所の財政等において向上している

評価項目1

財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

法人と連携した収支管理や現場の経費節減など、収支バランスの最適化に取り組んでいる

当園及び法人の会計・財務の各施策は、業務委託する会計事務所の支援も活用して進められている。園単位の収支管理は法人との連携のもとで行われ、直近の決算でも積立金が確保されるなど、計画的な予算執行が図られている。また日常的な節電・節水や裏紙の活用などの励行、消耗品等の購入時の価格比較など、現場レベルでの経費抑制にも取り組むなど、収支バランスの最適化に努めている。

サブカテゴリー5(8-5)

前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している
・カテゴリー3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

保護者のさまざまな要望等を各種の手法で把握し、現場の改善などに反映させている

毎日の保護者との会話や連絡帳への記入・保育参観後に行う個別の面談などから、日常レベルの個別の要望等の収集に取り組むとともに、苦情解決に係る諸制度や玄関に設置した意見箱を通じ、匿名での苦情等の申し出も可能としている。また行事後の書面による感想募集や開園以来毎年実施する第三者機関による利用者調査、定期的な懇談会など、全体的な意向把握の機会もさまざまに設けている。これらを通じて寄せられた保護者の意見や要望を、案件に応じて案件に応じて経営層または組織内で共有のうえ、改善や保護者との共通理解形成などに反映させるべく取り組んでいる。

前述の昨年度の利用者調査を踏まえた子どもへの言動等に関する課題検討以外にも、発表会では昨年度の意見をもとに、クラスごとに優先観覧席を設けたり、ビデオ撮影を後方に移動せず、他の保護者の観覧に使用をきたさない範囲で自席でも行えるようにするなど、寄せられた要望等を改善につなげた事例も確認することができる。また「子ども」チームが取り組む「早寝・早起き・朝ご飯」や今年度の「世界のご飯」の活動でも、各家庭へのアンケート調査を行って取組の充実に向けた参考としている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリー1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <input type="radio"/>非該当
	サブカテゴリー1の講評	
	<p>園のホームページ等で園の様子を知ることができるようしている</p> <p>レイアウト図に写真を添えて園舎のコンセプトや園のミッションステートメント(使命の文章化)を紹介するA4二つ折りのパンフレットを用意して見学者に渡している。園のホームページ(以下、HP)では、入園決定者向けの説明資料を入手できるほか、客観的な園のサービス状況を知ることができるように、受審した第三者評価結果を閲覧できるようにしている。また、入園に必要な準備物や各クラスの毎日の様子なども掲載されており、入園前に園の様子を知ることができるように工夫している。</p> <p>市の各種媒体や近隣の施設を活用して園の情報を提供している</p> <p>市のHPに市内に所在する認可保育所の一覧表で各園の所在地や受入年齢や定員、延長保育時間が確認できるほか、園の専用ページも設けられて基本情報・保育目標・保育方針・職員配置・主な行事などが確認できようになっている。また、市の冊子「保育園入園案内」にもHPと同内容の情報が掲載され、市報には園で取り組んでいる子育て支援の案内が掲載され、ともに市のHPから入手することができる。子育て情報紙「らすく」は公民館に設置して配布されているほか、市のイベントにも参加して園の紹介を行うなどさまざまな媒体で園の情報を発信している。</p> <p>希望者の知りたいことへの説明や都合に柔軟に対応した見学となるように心掛けている</p> <p>見学は1回5組を上限に随時予約を受け付け、子どもの活動の様子が見られる平日の午前に行っているが、希望者の都合に柔軟に対応するよう心掛けている。対応の際には、園内を案内しながら、車での送迎ができないことやHPで「園のしおり」を見てもらうように伝えている。また特色としている園庭と園庭とつながるランチルームや屋上、保育の内容について説明するほか、見学者の知りたいことに応じた説明を行い、質疑応答によって疑問や不安が残らないように丁寧な対応を心掛けている。</p>	

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
入園説明会で重要事項等を説明し、質疑応答で同意を確認している 入園前には事前に「園のしおり」を配付し、利用開始にあたっての必要な説明をプレゼンテーション形式で行っている。ミッションステートメント(使命の文章化)や保育方針・保育目標のほか、一日の流れや保育に関するお願いごと、園生活や家庭における健康管理、感染症やSI DSの家庭での配慮など、園長・主任・看護師がそれぞれ分担して説明を行っており、持ち物はわかりやすいように見本を展示している。写真などの個人情報の取り扱いの同意を口頭で確認するとともに、質疑応答と書面によって重要事項の説明の同意を確認している。		
入園面談で保育開始に必要な子どもの状況等を確認して支援に活かしている 別日で行われる入園面談では、保護者から提出される児童票や「新入園児生活状況調査票」等を参考に面談を行い、保育開始に必要な情報を把握している。入園前までの子どもの生活や発達状況、保護者の就労状況や意向などを確認して「新入園児面接記録」に記録し、食物アレルギー等の個別の配慮が必要な場合は専門職も同席して入園後の配慮について確認し合っている。把握した情報は、管理ソフトに入力するとともに、会議にて共有することで入園後の支援に活かせるようにしている。		
「慣れ保育」等で子どもの不安の軽減を図り、利用終了後の関係継続に努めている 入園直後には1週間を目安に保護者の就労や子どもの状況をもとに事前に相談のうえ設定した期間で、保育時間を徐々に延ばしていく「慣れ保育」を行い、新しい環境下での子どもの不安を軽減できるようにしている。また、入園面談で把握した好きな遊びや生活リズムに沿って安心して過ごせるように配慮するとともに、0歳児の保護者の都合に応じて午前の活動に参加してもらい、離乳食の与え方を保育者が観察して、その後の食事提供の参考としている。小学校3年生までの卒園児等には夏祭りや運動会の招待状を送付して、関係の継続に努めている。		

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12/12
3 個別状況に応じた計画策定・記録			
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		○非該当
評価項目2 子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		○非該当
●あり ○なし	2. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画を保護者にわかりやすく説明している		○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	5. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している		○非該当

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー3の講評		
<p>個別状況を記録し、園全体での情報共有に努め、一人ひとりへの発達援助につなげている</p> <p>入園時には個別面談にて家庭での個別状況を把握し、その後も連絡帳のやり取りや送迎・面談時で保護者から得た情報も踏まえ、0～2歳児及び配慮の必要な子どもの個別月案の立案へと反映するとともに、これらの記録を行うほか、0・1歳児は毎日、2歳以上児は随時及び期ごとで子どもの様子や発達状況、健康状態などを記録している。また子どもの状況等は職員会議及び各クラスの会議の中で伝え合い、日々の様子は朝・昼礼やITシステムを活用して園全体での情報共有に努め、一人ひとりへの発達援助につなげている。</p> <p>保育課程に基づいた各計画の策定と実践を行い、方針等を保護者に伝えている</p> <p>保育課程に基づき年・月・週日の指導計画を作成し、日々の保育実践が展開されている。今年度から新たな保育ソフトを導入し、よりトータル的な子どもの発達状況や情報共有等ができるようにしており、カリキュラム会議では各期間の子どもの様子や保育の実践を複数名の視点を交えて振り返り、変更が生じた際は修正するなどして、計画につながりを持たせられるようにしている。また懇談会や面談などでは保育の方針や発達の見直しなどを保護者に説明し、園の保育への理解を深められるようにするほか、週の計画は玄関でのモニター掲示で伝えている。</p> <p>各種の会議や伝達ツールを活かした情報共有に努め、子どもへの支援につなげている</p> <p>乳児・幼児カリキュラム会議では行事の流れや内容、今後の保育等の事項を話し合うほか、職員会議では各クラスでの状況と振り返り、子どもの個別配慮などを伝えている。短時間職員の情報共有及び各クラスの会議が月1回で定着し、より担任間で情報を把握できるようになったほか、職員会議においてもこれらの情報を挙げて、園全体で共有できるようにしている。さらに園内ネットワークでも共有するとともに、職員用の「お迎え伝達表」も併用するなど、複数の情報共有ルールを用いて園内での情報共有の徹底に努め、子どもへの支援につなげている。</p>		

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	7/7
5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重			
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
<p>子どものプライバシー情報や羞恥心に対するさまざまな配慮を行っている</p> <p>個人情報に関しては入園時に利用目的を説明するほか、子どもに関する情報を外部とやり取りする場合には「園のしおり」等に記載の法人のプライバシーポリシーに則って対応している。また室内及び廊下のトイレは周辺からの視野を防げるように設備の配置上で考慮するとともに、幼児のトイレには扉を付け、年齢によって生じうる羞恥心の芽生えにも個々に配慮できるようにしている。夏場のプール活動は屋上園庭に設置するプールを使用し、外部からの視線を遮断するとともに、室内で着替えを行うなどの配慮をしている。</p> <p>人権を尊重した保育に向けて、研修等によって徹底につなげられるように取り組んでいる</p> <p>保育等に関わる職員が不適切な接し方をしないようにマニュアル等に人権尊重や接遇などについて定め、入職時の研修やOJT研修で周知や理解を深められるように取り組んでいるほか、年2回「保育士の対応基準チェックシート」をもとに振り返りを行うほか、経営層による随時の指導などで徹底につなげている。ただ、今回の利用者調査のほか、職員からも職員に求められる姿勢と整合しない意見が寄せられていることに対して、保護者の満足度や信頼関係が向上する中での危機感を感じており、改善に向けて実態を確認のうえ、対応策を検討する意向である。</p> <p>マニュアルに基づいて早期発見に努め、会議等で理解を深められように取り組んでいる</p> <p>虐待防止に向け、虐待の定義や発生要因、早期発見のポイント、相談・通告の流れなどをまとめたマニュアルやチェックシートを整え、登園時等での視診で不自然なあざや火傷等があった場合、担任・看護師・園長・主任の複数で状況を確認し、ケースに応じて子ども家庭支援センターや児童相談所に通告するとともに、これら関係機関と連携を図る仕組みとなっている。虐待防止マニュアルは全職員に配付されるほか、職員の言動等をOJT形式でクラスリーダーが指導を行うなどして理解を深め、現場での職員の望ましい言動につながるよう取り組んでいる。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	11/11
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当	
評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当	
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
さまざまなマニュアルを整備し、法人・園の考え等が周知されている 園の職員に求める接遇マナー、保育実践や保健衛生・安全管理などの手順を定めたマニュアルのほか、「職務基準書」に園の理念・方針・目標と役割分担表、職種・職位ごとの業務における基本心得と必要な研鑽を示し、事務所に置いて常時確認できるようにしている。「職務基準書」を常勤職員に配付するほか、毎年更新する「職員のしおり」は年度当初に全職員へ配付のうえ、読み合わせによって職員としての自覚や行動指針、年度・中長期計画などを確認して園等の方向性の共通理解を図り、実践面ではクラスリーダーによるOJTによって徹底につなげている。 各種会議での職員提案の活用やチーム制による分野ごとの見直しを行っている 保育や運営、行事などの手順や基本事項等は、職員の提案や保護者からの意見などを踏まえて職員会議で検討し、見直しを図る仕組みとなっている。また地域・保護者・職員・子ども・危機管理に関わる内容の課題抽出及び対策検討をチーム制によって行っている。職員間の情報共有の強化に向け、常勤職員と短時間職員との話し合いや短時間職員の業務の明確化を行ったり、散歩先で帰園できない場合のために公衆電話の位置を「公園お散歩MAP」に追加するほか、子どもの食事のマナーについて、園として一貫したルールで伝えることを決めている。 さまざまな取組によって安全な保育提供に向けて取り組んでいる 毎月の1回「安全チェックリスト」に基づいて各クラスで危険箇所の有無等を確認するほか、「事故防止チェックリスト」に基づいて、年齢に応じた子どもの行動に危険などがなかったかを振り返って確認をしている。毎月の会議で行われるリスクマネジメント計画に基づく園内研修では、「公園お散歩マップ」や散歩手順の確認、虐待やSIDS強化月間と連動して意識維持する取組、看護師による救急救命やアレルギーショック対応などの講習などが行われるほか、警察と連携してさすまたを使用した防犯訓練を行うなど、安全の維持向上を図っている。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		37/37
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている	評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけることができるよう、環境構成を工夫している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している	○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当
評価項目1の講評		
<p>子どもの主体的な活動や生活を保障する環境構成の工夫を行っている</p> <p>子どもが主体的に活動し、集中して遊び込めるように2室の保育室を準備している。各室内ではままごとや絵本のコーナー、積み木・ブロック・パズルなどの発達に応じた玩具を準備し、子どもが自ら選んで取り組めるようにしたり、遊びの続きができるようにも配慮するほか、子どもの発想も採り入れながら主体的な活動が行えるようにしている。また一人ひとりの子どもには1歳児より家庭で人形を作ってもらい、園生活における情緒の安定に活かすとともに、ものに愛着を持ち、大切にすることを身につけている。</p> <p>異年齢での育ち合いや多文化への興味の発展が促されている</p> <p>年長児の国旗遊びや日本の伝承遊びを通して多様な文化に触れるほか、「世界のごはん」としてさまざまな国の食べ物や文化などを伝え、身近な環境や社会と食をつなげ、子どもの食べる意欲と興味・関心を高めている。また異年齢で過ごす場もさまざまに設け、年上の子を見習ったり、年下の子のお世話をするなどの関わりを通じ、成長への憧れや年上の自覚が培われるほか、3歳以上児では当番活動の一環として、配膳の手伝いや朝夕の会の司会を行うなど、子どもが役割を果たす中で社会性や責任感も育まれている。</p> <p>個別状況に応じた適切な配慮や援助に努めている</p> <p>配慮が必要な子どもには個別の月案を作成し、個々の特性や発達状況に即した援助に努めている。また外部機関や保護者と連携を図り、子どもの状況や必要な援助について情報を共有するとともに、園内においても会議等で子どもの発達状況や今後の課題などを話し合い、その子に合った支援について共通認識を深めている。子ども同士のトラブルの際にはまず子どもの気持ちを受け止めて職員が代弁したり、年齢に応じて自分たちで解決できるように見守り、職員が仲立ちをしながらその後子ども同士で解決ができるような声掛けや支援に努めている。</p>		

2 評価項目2 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2の講評		
<p>職員間での情報共有を図り、保護者にその日の様子等を伝えている</p> <p>朝の受け入れの際には職員による視診とともに、家庭での子どもの様子や健康状態などを聞き取り、「お迎え伝達表」に記してクラス内で共有するほか、これらの情報やその日の子どもの様子などは朝礼・昼礼等でも伝達し、お迎えの際に保護者に伝えられるようにしている。また生活の連続性を大切に家庭と園とのやり取りを丁寧に行うとともに、園全体で情報共有を密にしながら保護者に積極的に声をかけられるように心がけている。その他にも玄関モニターやホームページ上でもその日の活動内容等を知らせている。</p> <p>生活習慣の自立に向け、家庭との連携をもとに子どもの意欲等に応じて進めている</p> <p>懇談会や面談等を通じて園と家庭との連携を図り、子どもの状況や発達などの共通理解を深めながら、同じ方向で進められるようにするとともに、園内では発達に応じて自分でできる環境を整え、生活習慣の自立に向けて援助している。歯が生えてきた頃から歯磨きを開始し、乳児には職員が仕上げ磨きをするほか、うがい・手洗いも生活の場面ごとで取り組めるようにしている。また排せつは個々の間隔を確認して誘いかけたり、着脱等は見守りながらも声掛けや必要な援助をするなど、子どもの意欲や発達に応じて進めている。</p> <p>個々の生活リズムや体調等に応じて安心して睡眠がとれるように配慮している</p> <p>子どもの生活リズムや体調等を考慮し、早めに昼寝ができるようにしたり、朝夕の時間帯でゆったりと過ごせるようにするなど、個々の状況に応じた睡眠・休息ができるようにしている。また睡眠の際には室内を子どもの顔が見える程度の明るさに調整し、眠りやすいような環境を整えるほか、SIDS予防として睡眠チェック表を活用し、呼吸・体勢などの確認を実施するとともに、満1歳の誕生日を迎えるまで呼吸感知器を使用し、確実な状態把握と発生予防に努めている。なお、5歳児は1月頃から昼寝をなくし、就学に向けて生活リズムを整えている。</p>		

3 評価項目3		日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の内容は保育目標を反映して構成されている			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている			<input type="radio"/> 非該当
評価項目3の講評				
<p>子どもの自主性を尊重した活動を行い、豊かな感性を育てている 各部屋にあるパズルや折り紙、積み木など子どもが自由に遊べる時間を保障するほか、活動の合間に絵本コーナーを活用したり、玄関ホールでは壁面にあるさまざまな形のマグネットを用いて子どもの発想でデザインできるようにするなど、さまざまな設備・空間の工夫も交えて子どもの自主性や想像力の伸長と発揮を支援している。また外部講師による造形教室では絵の具やはさみ等を用いた制作に取り組むとともに、子どもに問いかけながら一緒に考えたり、感触を楽しみながら作品を完成させるなど、子どもの感性を育む活動が積極的に行われている。</p> <p>子どもの発達や意欲に応じ、多彩な活動や体験ができるようにしている 体育指導では発達に応じてマット・鉄棒・跳び箱・縄跳び等多岐にわたる活動を行い、子どもの気持ちを高めたり、興味を持てるように配慮している。またリズムの活動では異年齢で取り組み、年上の子どもの姿を年下の子どもが見て学ぶ機会ともなっているほか、バスを使って出かける園外遠足や少し離れた公園に出かける「なかよしピクニック」など季節ごとで皆で楽しむ取組も行われている。さらに食育活動の一環として畑で栽培活動を行うほか、園外遠足で収穫した野菜を使って大根餅を作って食べるなど、多彩な体験ができるようにしている。</p> <p>周辺環境を活かして自然を感じながら身体を動かし、探求心を高められるようにしている 天気の良い日には屋上や園庭も積極的に活用しながら、固定遊具やサーキット遊び、かけっこなど身体を動かして遊べるようにするほか、2か所の砂場で乳児と幼児に分かれたり、時間差で遊ぶ時間を変えるなど年齢別や異年齢で安全面にも配慮して関わりが持てるようにしている。また季節や自然に親しむ機会を設けており、散歩に出かけて身近な草花や生き物などの発見を喜び、図鑑や絵本で調べるほか、近隣の公園などで採集した自然物を制作に活かす活動も行うなど、探究心の高まりへとつながっている。</p>				

4 評価項目4		標準項目	評点(〇〇〇〇)
行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている			
●あり ○なし	1. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事等を実施している		○非該当
●あり ○なし	3. 行事等を行うときは、保護者の理解が得られるような工夫をしている		○非該当
●あり ○なし	4. 保育所の行事に地域の人への参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目4の講評			
<p>子どもがともに作り上げ、やり遂げた達成感を味わえるようにしている</p> <p>運動会では3歳以上児が各々の発達に応じて跳び箱・鉄棒・マット運動など体育指導での成果を発表するほか、年長児が活動の集大成として組体操に挑戦したり、4歳児はパラバルーンに取り組むなど、力を合わせてやり遂げる達成感につなげている。発表会では子どもたちが日常保育で親む絵本から題材を選び、配役やせりふも子どもの主体性を尊重し、仲間同士で力を合わせて当日の発表に結びつけ、みんなで協力して創りあげる喜びを感じられるようにしている。また行事後には子どもたちがごっこ遊びをするなど余韻も楽しめるようにしている。</p> <p>それぞれの意欲を高める子ども主体の行事が展開されている</p> <p>5歳児の「デイキャンプ」では企画の段階から子ども達と一緒に考え、昼には流しそうめんを楽しみ、商店に出かけてグループごとに夕食の材料を購入するとともに、調理器具を使ってカレーやサラダを各グループで分担して作って皆で一緒に食べるほか、夜はキャンプファイヤーをしたり、園内探索をするなど、保護者と離れて友達と一晩を過ごし、自立心を育てるとともに特別な思い出となっている。また夏祭りや運動会、発表会においても自分たちで衣装や小道具作りを行うなど、子どもたちの意欲的を高め、主体的に取り組めるようにしている。</p> <p>さまざまな人との交流が持たれ、子どもの生活の幅を広げている</p> <p>年長児の系列園との交流では互いの園を行き来して活動をともにすることで子ども同士のふれ合いが持たれている。また畑でさつま芋掘りを行い、収穫した芋をクッキング活動につなげたり、系列園の子どもと一緒に園外で焼き芋にして食べる体験も行われている。地域子育て支援での「お外で遊ぼう会」や「キッズランチ」、クリスマス会や餅つき等の園行事も地域の親子との出会いと交歓の機会となるほか、老人ホーム訪問による高齢者の方との交流、近隣の中学校からの職場体験生とも関わりを持つなど、さまざまな交流が子どもの生活の幅を広げている。</p>			

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継いでいる	○非該当
●あり ○なし	4. お迎え時には、子どもの日中の様子(担任からの引き継ぎ事項等を含む)を保護者に直接伝えている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>安全面に配慮しながら合同で楽しみながら過ごせるようにしている 朝・夕の時間帯では子どもの人数や状況に応じて合同で過ごしており、夕方の時間帯は0・1歳児は別室、2歳以上児が合同保育を行っている。合同保育で過ごす際には安全面にも配慮しながら粘土やパズルなどで遊んだり、絵本をゆったりと読むほか、カルタやゲームなど小集団でも遊べるようなものも準備して異年齢での活動も行えるようにしている。また日中の保育とは違う遊びを提供することで、子どもたちが飽きることなく楽しく過ごせるように工夫をしている。</p> <p>長時間の保育の中でも落ち着いて過ごせる環境を整えている 0～3歳児の各室は2部屋に分かれており、食事・睡眠・遊びなどのスペースを使い分け、個別・小グループでの主体的な活動ができるようにするとともに、子どもが落ち着いて過ごせるようにもしている。また各部屋では活動の内容によって静と動の活動を分けて保育を実践するなど、子どもの発達や状況に応じて使い分けるほか、ランチルームでは4・5歳児と一緒に食事ができるようにしたり、廊下スペースの絵本コーナーでは各部屋と違った雰囲気の中で絵本を読んだり、図鑑を調べるなど、長時間の生活の中でゆったりとできる環境が整えられている。</p> <p>園内で情報を引き継ぐ仕組みを設け、保護者への伝達漏れがないようにしている 子どもの一日の保育活動の様子や体調などは「お迎え伝達表」を利用して日中のクラス内やその日の延長保育の担当職員へと情報を引き継ぎ、お迎え時の保護者への確実な伝達に努めている。0～2歳児は連絡帳を毎日記載して園と家庭とのやり取りを行うほか、3歳以上児も必要に応じてノートの使用をしたり、モニターでのその日の様子の報告も行っている。また短時間職員を含むクラス担任以外の保育者も園内グループウェア上で情報を把握できるようにし、園全体で情報を共有できるようにしている。</p>		

6 評価項目6		子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価		標準項目			
●あり ○なし		1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○非該当	
●あり ○なし		2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当	
●あり ○なし		3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○非該当	
●あり ○なし		4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○非該当	
●あり ○なし		5. 保育所の食育に関する取り組みを、保護者に対して伝える活動をしている		○非該当	
評価項目6の講評					
<p>食への意欲や楽しみとする工夫が凝らされている 献立は2週サイクルで旬の食材を採り入れた薄味で提供しており、毎月の食育会議で子どもの食べ具合やメニューなどの現場の報告等を調理担当が把握し、次の調理等へとつなげている。また季節の行事や子どもからのリクエストをメニューに取り入れるほか、「世界のごはん」として多文化への興味を広げている。さらに4・5歳児はランチルームを活用し、自分たちで配膳を行う機会を設け、当番活動の一環として前に出て開始時に挨拶をしたり、年長児がアナウンス当番としてメニューの内容を放送するなど、食への意欲や楽しみとする工夫が凝らされている。</p> <p>個別状況に応じた配慮と、安全な給食の提供に努めている 食物アレルギーがある場合には医師の「生活管理指導票」のもとで代替食を提供しており、毎年1回は指示書を更新する仕組みとしている。また入園前・後の面談によって個々の状況を把握した上でアレルギー献立を作成し、提供月の前に保護者へ配付・確認をしている。提供の際にはトレイの色や食器の柄を変えて見た目にもわかるようにするとともに、テーブルを別にし、献立内容を調理担当と担任が確認するほか、配膳の際にも再度担任同士で確かめるなど、複数のチェック体制や工夫を行いながら事故防止に努めている。</p> <p>さまざまな取組によって子どもや保護者の食への関心を高めている 3歳以上児を中心に季節に応じた野菜を栽培し、収穫して給食の食材としたり、クッキングで使用するなど、栽培・調理・食すといった一連の体験を行う中で、子どもたちが食への関心や自然の実りをいただく感謝の心を育めるようにしている。また「子ども」チームに属する職員が主体となって、食材の三原色の紹介や早寝早起きの大切さを伝えて生活リズムへの意識を高める取組などを行ったり、玄関に食材の分類を展示して保護者にも関心を持ってもらうようにしている。</p>					

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携に基づく支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>さまざまな取組を通じてケガや感染症の予防を意識できるように取り組んでいる</p> <p>年齢に応じた手洗い・うがい・歯磨きを日常的に取り組むほか、歯科衛生士による刷掃指導や看護師による手洗い指導などの取組も行われている。園庭や園内の注意点、各公園の危険箇所等をまとめたカードを綴って各クラスに設置しており、活動前の指導に活用し、年1回交通安全教室での横断歩道の渡り方等の交通マナーの学びを通して子どもの安全に対する意識を高めている。また、さまざまな場面での危険について、子どもが理解できるように映像を活用した「危険学」を定期的に開催して子ども自身で意識できるように取り組んでいる。</p> <p>日々の取組や嘱託医との連携した取組で子どもの健康管理を行っている</p> <p>日々の子どもの健康状態は受け入れる職員の視診、保護者からの伝達や連絡帳によって把握し、巡回する看護師が各クラスの状況を確認し保健日誌に記録するとともに、子どもの状況に応じたケアに努めている。また、毎月の身体測定で子どもの発達状況を確認するほか、嘱託医による定期的な健康診断や歯科健診等を行って、結果を保護者に「健康カード」で報告するとともに日々の支援に活かしている。</p> <p>さまざまな媒体を通じて保健に関する情報を保護者に提供している</p> <p>園内で感染症が発生した場合には発生状況や関連する情報を玄関ホールで掲示するほか、行政等からの感染症などの保健情報も掲示し、保護者の注意を喚起してまん延防止に取り組んでいる。睡眠中の呼吸等の確認を0・1歳は10分、2歳児は20分間隔で行うほか、満1歳までは機器を使用して見守ってSIDS予防に取り組んでいる。入園時にSIDSの説明とあわせて園の取組を伝えるほか、近隣の医療機関、誤飲時や嘔吐処理の対応方法や感染症などの保健に関する情報を、家庭でも役立てられるように「園のしおり」に掲載している。</p>		

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている	評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して接している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保育所の保育に関して、保護者の考えや提案を聴く機会を設け反映させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目8の講評		
<p>コミュニケーションを大切にして個別事情に応じた配慮ができるように努めている</p> <p>日頃から保護者とのコミュニケーションや挨拶大切にして話しやすい環境づくりに努めており、保護者や家庭の個別事情を登降園時に聴き取りできるようにするほか、連絡帳や個人面談で把握し園内での情報共有を図るとともに、個々の事情に応じた配慮等ができるように努めている。また、保護者の就労事情等による延長保育や土曜保育の利用、補食等の提供に柔軟な対応に努めるほか、保護者の主な参加行事を土曜日に設定するとともに年間の行事予定を年度当初に伝えるなどして、参加の利便性を図って保護者の就労に配慮するよう努めている。</p> <p>さまざまな取組や工夫によって保護者との相互理解につながるよう取り組んでいる</p> <p>さまざまな工夫によって園の取組や子の育ちについて理解が深められるようにしており、保育参加は保護者の都合に応じて受け付け、保育体験を通じて子どもの様子や保育者の関わり方等を見てもらい、給食試食後に個人面談を行っている。年2回の懇談会では、年齢に応じた発達の特徴や保育目標、子どもの様子が視覚的にもわかるように映像を活用して伝えられるようにするほか、クラスごとの毎日の様子は玄関のモニターやHP、携帯で確認できるようにするなどして保護者との共通理解につなげられるよう取り組んでいる。</p> <p>さまざまな機会を把握した保護者の要望等をサービスの向上に活かしている</p> <p>保護者の意見・要望を園運営や保育に反映してサービスの向上につなげている。意見箱を設置するほか、個別面談や懇談会、利用者調査、行事後のアンケート、普段の会話からも聴き取るなど複数の機会でも要望等を収集できるようにしている。昨年度の利用者調査で寄せられた保護者の意見を1問1答形式で園便りに掲載して保護者に報告している。今年度、保護者から寄せられた要望を踏まえ、発表会でのビデオ撮影を自席でできるようにしたほか、複数の子どもが在園する場合クラス懇談会前の全体会に複数回出席する保護者の利便性の向上を図っている。</p>		

9	評価項目9 地域のニーズに即した子育て支援を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域における在宅子育て家庭のニーズに応じた子育て支援事業を実施している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域における在宅子育て家庭同士が交流できるような支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 提供している子育て支援事業の評価・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目9の講評			
<p>「子育て支援の提供拠点オンリーワン」を目指して広報に取り組んでいる</p> <p>「子育て支援の提供拠点オンリーワン」をミッションステートメントの一つに掲げ、その実践としてさまざまな取組を地域の子育て支援として展開している。支援活動の予定は市報に定期的に掲載されるほか、パートナー保育「すくすく」登録者へのメール配信されている。また毎月の各取組を掲載した子育て支援情報紙「らすく」を児童館で配布したり、園掲示板で掲示するほか、一時保育利用の家庭にも配付しており、今後は見学者にも配付する予定しているなど、利用促進に向けて取り組んでいる。</p> <p>地域の子育て支援としてさまざまな取組を展開している</p> <p>地域の子育て支援として取り組んでいる一時保育は、リフレッシュなど利用希望者の理由に関わりなく、利用が可能となっており、専用の部屋を設けて行っている。また「お外で遊ぼう会」は毎週木曜日午前中に行い園庭で遊んだあと紙芝居やお遊戯等を楽しめるようになっている。平日の午前中に行われる園庭開放では園庭や遊具を自由に使って遊ぶことができるほか、園児と一緒に遊べるようになっている。予約制となっている「キッズランチ」(有料)では5組を限定に園ランチルームで園の給食を試食でき、利用者同士の交流の場となっている。</p> <p>新たな取組も開始したほか、地域ニーズの把握に取り組んでいる</p> <p>さまざまな取組を子育て支援として展開するなか、今年度新たな取組として育児講座「しつけ講座」を年2回行って、しつけ等で悩んでいる地域の未就園世帯や産休中の保護者の参加を得られている。地域ニーズの把握や提供する取組の向上に向けて、育児講座や「キッズランチ」でアンケートを行っており、昨年度「キッズランチ」利用者から寄せられた意見をもとにレシピや献立表の配付を行ってサービスの向上につなげている。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている
タイトル①	子どもが主体的に生活や活動ができるような環境構成の工夫を行っている	
内容①	0～3歳児の各室は2部屋に分かれており、食事・睡眠・遊びなどのスペースを使い分け、子どもが主体的かつ意欲的に遊べるような発達を促す玩具を設置したり、ゆったりと絵本やままごとなどで楽しめるようにするほか、4・5歳児の部屋には集団の中においても子どもが安心して落ち着けるスペースを設けるなど環境構成を工夫している。これらは会議等で職員間の情報共有を図り、必要な支援や援助などを検討し、実際の保育へと反映できるようにするとともに、一人ひとりの発達状況等を把握・共有し、子どもへの適切な支援や配慮に努めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	種々の取組を通じ、運営や子どもの状況などに関する保護者との共通理解に努めている	
内容②	保護者との信頼関係をより確かなものとするべく、日頃のコミュニケーションや行事後の意向把握などに加え、さまざまな取組を行っている。昨年の利用者調査で寄せられた種々の意見について、園便りで複数ページにわたるQ&A式のフィードバックを行うほか、年度当初のクラス懇談会の構成を見直し、運営や保育提供等における園の方針等の説明を、より詳細に行っている。さらに短時間職員から寄せられた気づきや課題も職員会議で話し合うなど、情報共有を密にして各職員が子どもの状況を確実に把握し、保護者に丁寧な接遇や対応を行えるようにしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-6-3	さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している
タイトル③	組織全体で職員・保育者としての認識を共有し、仕事の質を高めることに取り組んでいる	
内容③	全職員で園の大切にしているものや各業務の対応手順などを共有し、組織的な能力向上と業務水準の確保につなげることに努めている。「職員のしおり」を毎年度全職員に配付・説明し、理念・方針や法人職員としての基本心得、事業計画等の確認を行うほか、入職3年目までの職員には「新人OJTチェックリスト」による初任者教育を行い、当園職員として必要な心構えや行動、業務手順などの定着を図っている。さらに昨年度末には全職員への意向調査を行って保育実践上の課題認識を収集し、子どもへの接遇等に関する共通理解や職員への個別指導に活かしている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	食を通じた多彩な体験を通じて、子どもの豊かな感性を育てている
	内容	当番活動では野菜の水遣りや給食の配膳、年長児による献立の放送など、子どもが役割を担い、責任感や人の役に立つ喜びを味わえるほか、「世界のごはん」としてさまざまな国の食べ物や文化などを伝え、身近な環境・社会と食をつなげ、子どもの食べる意欲と興味・関心を高めている。また年齢に応じた栽培・クッキングに取り組みほか、畑での芋掘り後には系列園の子どもと一緒に公園で焼き芋交流を行ったり、「デイキャンプ」では食材の調達からグループで分担して調理して食べるなど、食を通じた多彩な体験を通じて子どもの豊かな感性を育てている。
2	タイトル	日々の活動とのつながりのある行事やさまざまな人との交流が行われ、子どもの視野や生活の幅を広げている
	内容	運動会では各々の発達に応じて体育指導での成果を発表したり、皆で力を合わせてやり遂げる機会になるほか、発表会では子どもたちが日常保育で親しむ絵本から題材を選び、配役やせりふも子どもの主体性を尊重し、仲間同士で力を合わせて当日の発表に結びつけるなど、日々の活動とのつながりのある行事が行われている。これらは保護者とともに子どもの成長を感じられるようになっている。さらに年長児の老人ホーム訪問や系列園との交流、子育て支援事業における地域の親子との出会いと交歓の機会が持たれ、子どもの生活の幅を広げている。
3	タイトル	「危険学」の学びによって、子どもの危機回避能力の向上に向けて家庭との連携も意識して取り組んでいる
	内容	リーダー層で構成される「危機管理チーム」によって昨年度から試行的に開始した「危険学」を今年度継続して取り組んでいる。子ども自身で危険を意識して回避できるように、子どもにも理解できるように映像や実演によって、服装、すべり台や夏のプール、階段上り方や玄関飛び出し、廊下の出会い頭の事故など、さまざまな場面を想定した危険行動を教えており、子どものケガ減少につながれているとのことである。これらの取組は園内にとどまらず、家庭でも意識し連携していけるように園便りで取組の様子を伝えている
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	ソフトのさらなる効果的な活用を目指し、計画等の整合を高める取組や業務の効率化へとつなげられたい
	内容	保育ソフトにおいてもよりトータル的な子どもの発達状況の把握や情報共有等ができる仕組みが導入され、この運用が開始されている。現在、ソフトの活用がより効果的に行われ、業務の効率化の実現とともに、計画等の整合やつながりを担保できるような検討と準備が進めていることもあり、今後の保育所保育指針の改訂も見据え、これらの取組が実を結ぶことに期待したい。
2	タイトル	課題解決等に向けた計画をより機能させ、高い成果につなげるための、着実な実行と進捗確認の仕組み確立などを検討されたい
	内容	園の運営と諸活動及び課題解決等に向け、3か年計画と年度の事業計画を策定している。職員参画の各チームによる活動を軸に推進される3か年計画については、各活動の目指す状態・目標などの明確化や、それを目安とした定期的な各分野の進捗・実行状況の確認、チームごとの担当配置の見直しなど、活動のさらなる活性化を図ることも検討されたい。事業計画についても、「経営改革」として記載される昨年度の第三者評価結果を踏まえた三つの課題の進捗など、実行状況を定期的に検証する仕組みを設け、確実な課題解決につなげることに期待される。
3	タイトル	経営層のリーダーシップのもとで、園としての方針・考え方を組織内でさらに検討し、職員間・対保護者それぞれに認識共有を図られたい
	内容	保護者の多様な価値観に配慮し、その声に耳を傾けつつ、それらに誠実に対応することに取り組んでいる。利用者調査では昨年度に比して満足度がさらに上昇しており、取組の成果と保護者との良好な関係性がうかがえるが、一方で園の方針等について、相互理解をより深めることの必要性も認識されている。さまざまな要望等への対応や、その根拠となる園の方針、それらの保護者への発信などのあり方に関し、園としての考え方を経営層のリーダーシップのもとでさらに検討・明確化し、職員間・対保護者それぞれに認識共有を深めてゆくことが課題となろう。